児童・生徒の現状・課題

素直で教員や友達の話に耳を傾けて理解しようとする一方、自分で考え課題を見つけることが苦手。低学年では、まず学びの土台として基礎基本を定着させることが必要。まずは粘り強く学習に取り組めるように、学校として注力して手立てを打つことで、基礎学力の定着を図っていく必要がある。

学び続ける力を育むための重点目標

〇児童が学習に対して、前向きに粘り強く取り組めるようにする。（粘り強さ、ポジティブ）

児童生徒調査

肯定的回答の割合（%）	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	71.0	75.0	
②問題や課題に取り組んでも上手くいかない時には、上手くいくように違うやり方を試したり、調べたりして粘り強く取り組んでいる。	75.0	80.0	

教員調査

肯定的回答の割合（%）	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	83.4	85.0	
②問題や課題に取り組んでも上手くいかない時には、どうすればよいか、児童自らが方法を選択し行動できるよう、解決の方法を示している。	75.8	80.0	

具体的な手だて①

児童が「楽しそう」「やってみたい」「何故かな」と感じる導入の工夫をする。

具体的な手だて②

個人で取り組む時間と、グループで共有する時間を意図的・計画的に設定し、考えたことを学習の途中で見直したり、考えを広げたりすることができるようにする。

具体的な手だて③

毎時間の学習の振り返りや、単元の中盤で、理解度や進捗状況を確かめる場面を設定し、自分の学びの軌跡を振り返り、修正しながら学習できるようにする。

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

・校内研究でも、児童の意欲を引き出す学習課題や学習形態、導入について手立てを打ち、普段の授業に活かせる指導法を共有する。

・OJT グループで日々の実践を見合い、毎週互いの実践についてフィードバックする。

総括（7月）

児童自らが課題を見出し、学び方を選ぶためには、前段階として基礎基本の定着が必須である。昨年度 MNE 調査の結果では、「粘り強さ」について児童の自己評価は高いものの、教員の認識とずれがあるのが現状である。児童の関心を引き付ける単元作り、導入の工夫について学校全体で手立てを講じることで、学習への前向きな気持ちを引き出せるように取り組み、基礎基本の確実な定着を目指す。その上で「パターンを絞って選択肢を示し児童が自分で選ぶ場面を仕組む」など児童の実態に応じて段階を追っていくとよいのではないか。『全国学力・学習状況調査』の「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。」という質問では、肯定的な回答をした児童は、東京都や全国と比べて10ポイント近く少なかった。個別学習と協働的な学習場面を意図的に仕組み、学び方のバリエーションを増やすことで、児童自らが学び方を選ぶ素地を作っていく。

総括（1月）